

記者配布資料

平成 26 年(2014 年) 9 月 11 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学長 ながさか ゆうじ 長坂 祐二	附属地域共生センター 所長 か と だ けいこ 加登田 恵子	附属地域共生センター 専任研究員 しいぎ あやこ 椎木 綾子	☎ 083-928-3495
発表内容の 関係地域	全県、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、萩、首都圏			

1 件名

平成 26 年度 山口県立大学後期公開授業

「生涯現役社会論」「アフリカ社会・文化論 a」「現代社会論 b」「暮らしの人類学」の開催について

2 内容

授業名	概要	①開催期間 ②会場 ③受講料
生涯現役社会論	全国平均より約 10 年先行して高齢化が進んでいる山口県では、「生涯現役社会づくり」すなわち高齢者の社会貢献活動を促進するしくみを地域に構築していく必要があります。この授業では、「生涯現役社会づくり」のあり方とその方法について検討を重ねていきます。 【全 15 回】	①10 月 7 日 (火) ～平成 27 年 2 月 3 日 (火) ②山口県立大学 4 号館 D11 教室 ③各回 500 円 (一括払いの場合は 10 回以上 5,000 円)
アフリカ社会・文化論 a	アフリカ社会や文化について、現地からの最新報告を交えての講義です。日本人やヨーロッパ人がいかに「自分の文化」という色眼鏡で世界を見てきたか、その偏見やおごりを教えてくれるアフリカのパワフルな元気とそこに暮らす人々が現在置かれている苦境についても学び、私たちにできることは何かを考えていきましょう。 【全 15 回】 【特別講義①】 10/7 早川千晶さんを迎えて アフリカへようこそ！ -ケニアのスラムに学校を作る住民たちとともに 【特別講義②】 1/13 国際文化学部客員教授 WTO 顧問 ルアンガ・ムケラ教授 貧困のない世界へ -世界貿易と地域の発展を考える	①10 月 7 日 (火) ～平成 27 年 2 月 3 日 (火) ②山口県立大学 3 号館 C12 教室 ③各回 500 円 (一括払いの場合は 10 回以上 5,000 円) ※1/13 の特別講義は受講料無料

現代社会論 b	日本人学生と欧米・アジアからの留学生と共に、グループワークやディスカッションをしながら、お互いの文化と社会について学び合います。事例に沿った講義と楽しい会話形式で、全講義、英語で授業を進めます。 【全 15 回】	①10月7日(火) ～平成27年2月3日(火) ②山口県立大学4号館D22教室 ③各回500円 (一括払いの場合は 10回以上5,000円)
暮らしの人類学	一山口学から「いくつもの日本」へ。「奄美沖縄学」をテーマに日本の最南端である八重山の島々を皮切りに、沖縄・奄美や屋久島での研究の紹介など、40年にわたるフィールドワークの視点から深く掘り下げた地域学を学びます。 【全 15 回】	①10月2日(木) ～平成27年1月29日(木) ②山口県立大学 本館3階安溪研究室 ③各回500円 (一括払いの場合は 10回以上5,000円)

詳しい講義内容・日程については、直接お問合せいただくか別途チラシ（本学ホームページにも掲載しています）をご確認ください。

3 申込方法

- (1) 電話、FAXまたはハガキで、住所、氏名（ふりがな）、電話番号・FAX番号を申込先〈山口県立大学附属地域共生センター共生教育部門〉までお知らせください。
- (2) 部分受講も可能です。また、開催期間中は、随時受付いたします。

4 申し込み・問い合わせ先

〒753-8502 山口市桜島3丁目2-1
山口県立大学附属地域共生センター 共生教育部門
電話・FAX 083-928-3495
ホームページ <http://www.ypu.jp/>



生涯現役社会論

全国平均より約 10 年先行して高齢化が進んでいる山口県では、「生涯現役社会づくり」すなわち高齢者の社会貢献活動を促進するしくみを地域に構築していく必要があります。

この授業では、「生涯現役社会づくり」のあり方とその方法について検討を重ねていきます。

10月7日(火)～平成27年2月3日(火) 各回 12:50～14:20

場 所：山口県立大学 4号館 D11 教室 (裏面地図参照)

受講料：1回 500円 (一括払いの場合は10回以上 5,000円)

講 師：附属地域共生センター 教授 坂本 俊彦

10/7 第1回
生涯現役社会論を学ぶ意義

10/14 第2回
生涯現役社会と生きがい

10/21 第3回
生涯現役社会と家庭生活

10/28 第4回
生涯現役社会と職場生活

11/4 第5回
生涯現役社会と地域生活

11/11 第6回
生涯現役生活支援施策

11/18 第7回
シニアの地域デビュー支援 (1)

12/2 第8回
シニアの地域デビュー支援 (2)

12/9 第9回
社会貢献型シニア団体への支援 (1)

12/16 第10回
社会貢献型シニア団体への支援 (2)

1/6 第11回
生涯現役社会論と協働のまちづくり

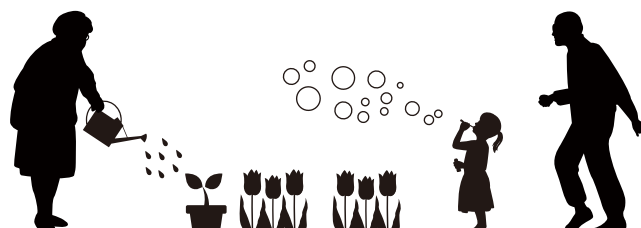
1/13 第12回
地域包括型住民組織への期待

1/20 第13回
地域づくり計画の策定支援

1/27 第14回
地域づくり人材の育成支援

2/3 第15回
生涯現役社会づくりと私たち

- 部分受講もできます。
- 全回受講された方には、「山口県立大学公開授業修了証書」を授与いたします。

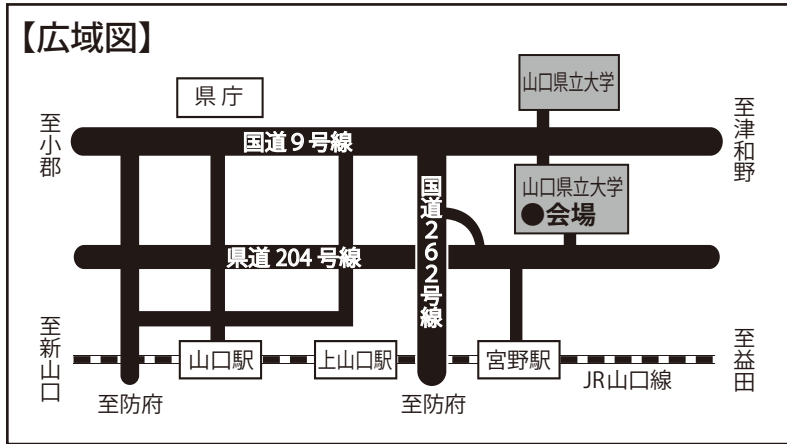


お申込み・お問合せ

◆TEL・FAX またはハガキでお申込みください。
TEL・FAX **083-928-3495**

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1
山口県立大学附属地域共生センター
共生教育部門 宛

【会場案内図】



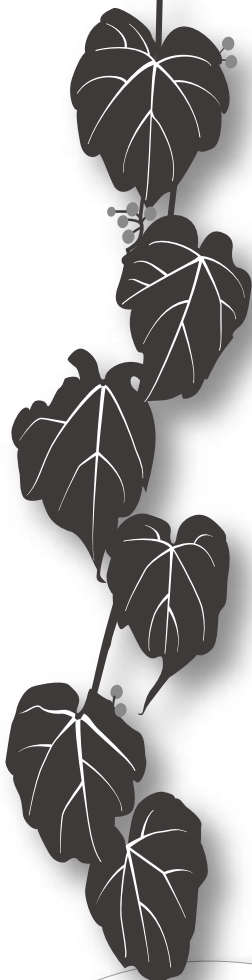
※お車でお越しの場合は、
附属地域共生センター前の
駐車場をご利用ください。



平成26年度 山口県立大学後期公開授業
「生涯現役社会論」 受講申込書

(ふりがな) お名前	
ご住所	〒
電話・FAX 番号	

アフリカ社会文化論a



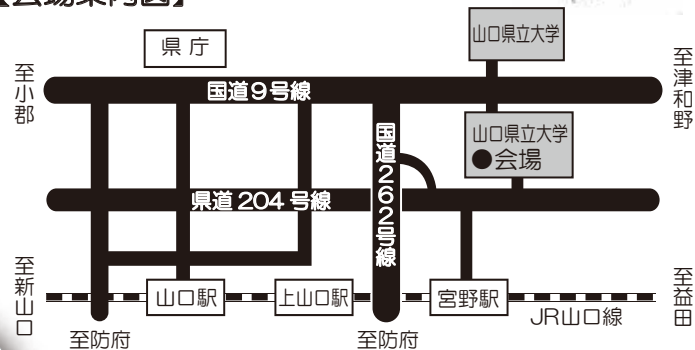
日時：10月7日（火）
～平成27年2月3日（火）
各回 14:30～16:00

場所：山口県立大学 3号館 C12 教室
受講料：1回 500円 ※1/13は無料
（一括払いの場合は10回以上 5,000円）

講師：国際文化学部
教授 安溪遊地



【会場案内図】



10/7 【特別講義】 (火)

早川千晶さんを迎えて
アフリカへようこそ！
—ケニアのスラムに学校を作る住民たちとともに

1/13 【特別講義】 (火)

受講料無料

国際文化学部客員教授
WTO 顧問 ルアンガ・ムケラ教授
「貧困のない世界へ
—世界貿易と地域の発展を考える」

- 部分受講もできます。
- 13回以上受講された方には、「山口県立大学公開授業受講修了証書」を授与いたします。
- TEL・FAX またはハガキで下記までお申込みください。

※詳しい日時と内容は裏面をご覧ください。

アフリカ社会や文化について、現地からの最新報告を交えての講義です。日本人やヨーロッパ人がいかに「自分の文化」という色眼鏡で世界を見てきたか、その偏見やおごりを教えてくれるアフリカのパワフルな元気とそこに暮らす人々が現在置かれている苦境についても学び、私たちにできることは何かを考えていきましょう。

お申込み・お問合せ

TEL・FAX 083-928-3495

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1
山口県立大学附属地域共生センター
共生教育部門 宛

◆講義内容

回	日時	テーマ	内容
1	10/7 (火)	【特別授業】早川千晶さんを迎えて アフリカへようこそ! —ケニアのスラムに学校を作る住民たちとともに	ナイロビという大都市とセットになった東アフリカ最大のスラム・キベラ地区。そこで生きる子どもたちのための学校を共同で運営する早川千晶さんを特別講師に招きます。
2	10/14 (火)	異国のカップルを半年泊めて養子にしてください —コンゴの森の社会のしなやかさと文化の豊かさ	1978年、コンゴ民主共和国(ザイール)で、私はアフリカの熱帯雨林のなかにある村で暮らし、滞在1カ月で村長の養子になって、森の暮らしの豊かさを知った。
3	10/21 (火)	お金がなくても困らない経済 —物々交換の市場が結ぶ川の民と森の民	貨幣経済が浸透した現代社会において、コンゴ川の漁民と焼畑農耕民が毎週出会い物々交換をする定期市は、謎の存在だった。
4	10/28 (火)	「歴史のない暗黒大陸」というウソは誰がつくったの? —西欧から奴隷制度の影まで輸入した日本人	古代からの文明の興亡。エジプト文明には黒人王朝があった。ジンバブウェの古代遺跡など、高度の文明を支えた人々の歩みをたどる。
5	11/4 (火)	なぜアフリカの国境はまっすぐなの? —列強の植民地分割とその後遺症	列強による植民地化と独立。ケニアとコンゴ民主を例に。
6	11/11 (火)	日本人は外国語としてまずスワヒリ語を学ぶべきです —アフリカの多彩なことばの世界から	Jambo、Jambo Bwanaというライオンキングの歌など、スワヒリ語で歌う。ピジンとクレオールという現象を知る。
7	11/18 (火)	話し手5万人のSongola語の神話と取り組む —辞書も文法書もない私の研究最前線から	スワヒリ語の仲間であるバントゥー諸語との格闘。話者5万人程度のソングラ語の辞書づくりと、昔話・神話の研究
8	12/2 (火)	黄色い皮を被ったバナナと呼ばれた日本人 —アパルトヘイトとの闘いと「名誉白人」	アパルトヘイトのもとで人々の暮らしと闘い。暴力に対して非暴力はどこまで有効か。映画作品を紹介しつつ、差別が法律となっていた時代の生活を知る。
9	12/9 (火)	「大虐殺をテレビで見ても『怖いね』といって食事を続けるんだ」 —1994年ルワンダの悲劇と和解・復興の課題	民族対立と内戦の行方。1994年のルワンダの悲劇はどうして起こり、コンゴ民主共和国の紛争につながり、さらに第1次アフリカ大戦といわれる戦争になったのか。
10	12/16 (火)	西アフリカの庶民の暮らし —ガボン共和国の街と森で	西アフリカのガボン共和国をたずねての、はじめての村での予備調査風景。フィールドワークの様子を紹介。
11	1/6 (火)	どうしてこんなに多彩な地酒があるの? —庶民の暮らしの知恵の世界を探る	地酒づくりを追う東アフリカとガボンの旅から。東アジアにしかないと言われていたカビ(麹など)を用いた地酒を世界ではじめて学会で紹介した安溪貴子氏の研究を紹介。
12	1/13 (火)	【特別講義】国際文化学部客員教授 WTO顧問 ルアンガ・ムケラ教授 貧困のない世界へ —世界貿易と地域の発展を考える。	あなたの携帯電話には血塗られた紛争鉱物が入っていないか? コンゴ民主とジュネーブの現場からのメッセージを通し、国連職員という仕事を知ろう。 ※1/13の特別講義は受講料無料です。
13	1/20 (火)	岩手県遠野のカマドと草履で暮らしを変えた —西ケニアのエンザロ村の人々と岸田ママの起こした奇跡	援助とはなにか。ケニアに住んで30年、岸田ママと呼ばれる女性の智慧にみちた取り組みが日本の援助のあり方そのものを変えていく。
14	1/27 (火)	「あなたこそ日本の未来」 —環境保護にかかわるコンゴのカヘークワさんからのメッセージ	東アフリカの聖なる森を守るために、若者たちと長老たちが合意した秘密の計画とは。ケニア東海岸でのフィールドワーク結果の紹介。
15	2/3 (火)	あなたの暮らしが今問われている —最終レポートのタイトル案を授業中に提出・講評	質疑応答とレポートの書き方の指導。

◆受講申込書

後期公開授業「アフリカ社会・文化論 a」を受講します。

お名前 (ふりがな)	
ご住所	〒
電話・FAX	

現代社会論 b

日本人学生と欧米・アジアからの留学生と共に、グループワークやディスカッションをしながら、お互いの文化と社会について学び合います。事例に沿った講義と楽しい会話形式で、全講義、英語で授業を進めます。

10月7日(火)～平成27年2月8日(火)

各回とも 14:30～16:00

会 場：山口県立大学 4号館 D22 教室

受講料：1回 500 円（一括払いの場合は 10 回以上 5,000 円）

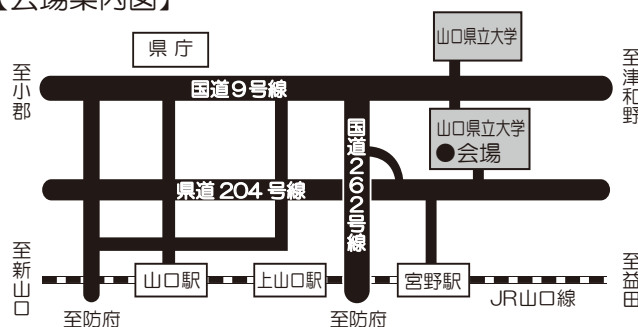
講 師：国際文化学部 教授 Wilson Amy（ウィルソン・エイミー）

※詳しい日時と内容は裏面をご覧ください。



【会場案内図】

- 部分受講もできます。
- 全回受講された方には、「山口県立大学公開授業修了証書」を授与いたします。
- TEL・FAX またはハガキで下記へお申込みください。



お申込み・お問合せ

TEL・FAX 083-928-3495

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1
山口県立大学附属地域共生センター
共生教育部門 宛

◆講義内容

回	日 時	内 容
1	10/7 (火)	Introduction to the Course 【概論・自己紹介】
2	10/14 (火)	Cross-Cultural Differences in the Home 【家庭における異文化間の相違】
3	10/21 (火)	Is it Personal or Cultural? I 【個人的？文化的？（1）】
4	10/28 (火)	Is it Personal or Cultural? II 【個人的？文化的？（2）】
5	11/4 (火)	Verbal Self-Disclosure 【言語による自己開示】
6	11/11 (火)	Universal Culture: Does it exist? 【普遍的な文化はありますか？】
7	11/18 (火)	Life Stages 【ライフステージ:人生の大行事】
8	12/2 (火)	Cultural-cultural Misunderstandings 【異文化間の誤解について】
9	12/9 (火)	Gift-Giving in Japan and other cultures 【日本と他文化における贈答について】
10	12/16 (火)	Language: Are we really understanding what we hear? 【ことは：聞いたことを本当に理解していますか？】
11	1/6 (火)	Holidays I 【祭日（1）】
12	1/13 (火)	Holidays II 【祭日（2）】
13	1/20 (火)	Reverse Culture Shock I 【逆カルチャーショック（1）】
14	1/27 (火)	Reverse Culture Shock II 【逆カルチャーショック（2）】
15	2/3 (火)	Saying Goodbye 【最後の挨拶】

◆受講申込書 後期公開授業「現代社会論b」を受講します。

お名前 (ふりがな)	
ご住所	〒
電話・FAX	

電話またはFAX、ハガキでお申込みください。

暮らしの人類学

大学院の
授業です

ー山口学から「いくつもの日本」へ。ー

「奄美沖縄学」をテーマに日本の最南端である八重山の島々を皮切りに、沖縄・奄美や屋久島での研究の紹介など、40年にわたるフィールドワークの視点から深く掘り下げた地域学を学びます。

10月2日(木)～平成27年1月29日(木) 各回 16:10～17:40

場 所：山口県立大学 本館3階 安溪研究室（裏面地図参照）

受講料：1回 500円（一括払いの場合は10回以上 5,000円）

講 師：国際文化学研究科 教授 安溪 遊地

10/2 第1回
「バカセなら毎年何十人も来るぞ」
——南の島々との出会いの衝撃

10/9 第2回
「何学」なのかわからないままスタート
——廃村ですごした日々から理科系のミンゾク学へ

10/23 第3回
南島研究の先人達
——田代安定の明治18年のフィールドノートを読む

10/30 第4回
人は何を食べてきたか
——西表島の食文化にみる3つの伝統

11/6 第5回
北からの道・南からの道
——日本稲作とイモ作のルーツを求めて

11/13 第6回
ソテツは悪人
——奄美・沖縄の有毒な食物との共存の知恵

11/20 第7回
沖縄方言と方言礼
——軍事占領と文化的ジェノサイドの現場から

11/27 第8回
研究者からヤミ米屋になる経験
——ヤマネコ印西表安心米の冒険

12/4 第9回
ワニのいた聖なる川の物語
——リゾートに脅かされる生物多様性と
文化多様性を守る

12/11 第10回
530年前の記憶を生きる
——与那国島に残る済州島漂流民の伝承

12/18 第11回
高い島と低い島の交易
——島々を結んだ物々交換のネットワーク

1/8 第12回
国境の民は国境を信じない
——台湾と与那国島の秘められた交流史

1/15 第13回
いくさ世（ユー）を超えて
——聞き書きと話者が筆を執る試み

1/22 第14回
すべてに命があり神がやどる
——南島の世界観・生命観

1/29 第15回
汝の立つところ深く掘れ、そこに甘き泉あり
——結びのこぼれ

- 部分受講も可能です。
- 13回以上受講された方には、「山口県立大学公開授業終了証書」を授与いたします。

お申込み・お問合せ

◆TEL・FAX またはハガキでお申込みください。

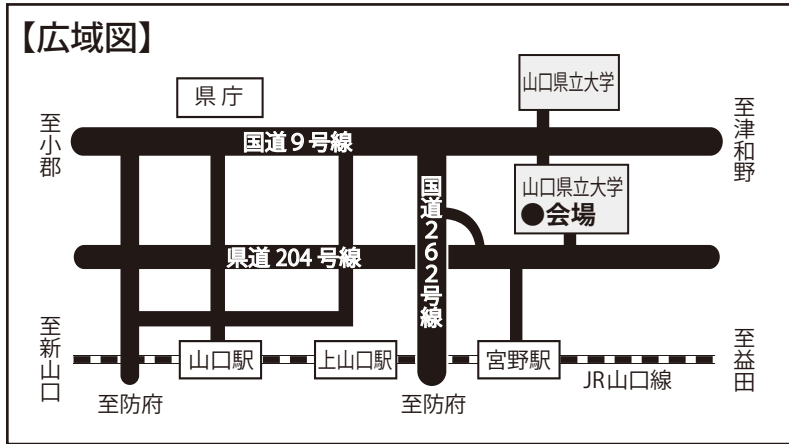
TEL・FAX 083-928-3495

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1

山口県立大学附属地域共生センター

共生教育部門 宛

【会場案内図】



※お車でお越しの場合は、
附属地域共生センター前の
駐車場をご利用ください。



平成26年度 山口県立大学後期公開授業
「暮らしの人類学」 受講申込書

（ふりがな） お名前	
ご住所	〒
電話・FAX 番号	